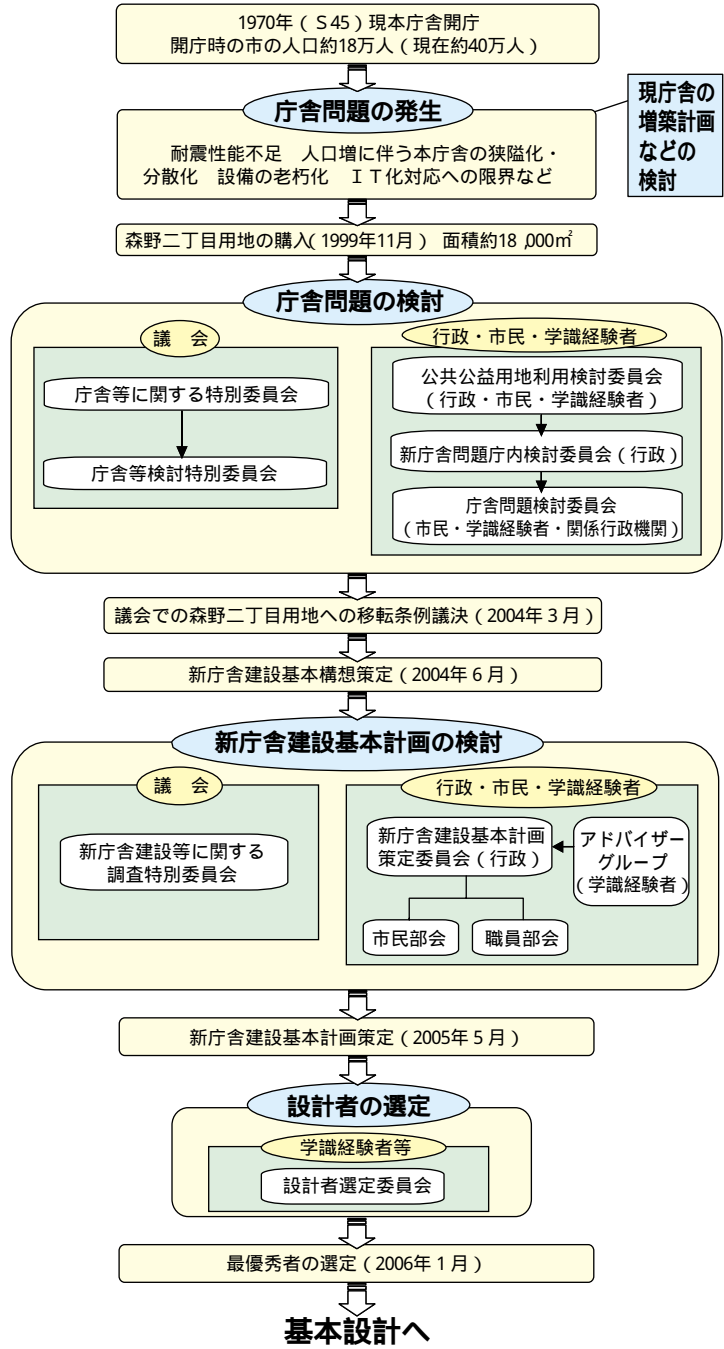


## 第2部 新庁舎建設 特集号

図1 新庁舎建設に関するこれまでの経緯



# 新庁舎建設

## 設計者選定 最優秀者に榎文彦氏

本紙2月11日号でお知らせしたとおり、1月21日に行われた「町田市新庁舎建設設計者選定第3次(最終)審査」において、最優秀者に榎文彦氏が選ばれました。本特集号では、設計者が決まるまでの経過を振り返るとともに、第2面で最優秀者の提案書をご紹介します。

**1 設計者の選定に至るまで**

これまでにも本紙でお知らせしてきましたが、今回の新庁舎の設計者選定に至るまでには、図1に示したように、様々な検討過程がありました。

現在の本庁舎は、1970年に建設されましたが、その後、図1にあるような多くの問題を抱えることとなり、行政や議会を中心に増築等の様々な検討がなされてきました。このような状況の中、1999年に、庁舎移転を視野に入れて、森野二丁目用地が購入され、以後、庁舎問題解消のための本格的な検討が、市民を交えて行われるようになりました。

2003年12月には、市役所の位置を定める条例の一部を改正する等の条例案(森野二丁目用地への移転条例案)が議会に提出され、議会で設置された庁舎等検討特別委員会の検討を経て、2004年3月議会において、出席議員の3分の2以上の賛成により可決されました。

この間、市では、無作為抽出による5千人規模の市民アンケートの実施、市民や学識経験者が主体



となった庁舎問題検討委員会(委員長・高見澤邦郎 首都大学東京教授)による検討など、様々な形で多くの皆様に意見をいただきながら検討を進め、2004年6月には、「新庁舎建設基本構想」を策定しました。

また、続く「新庁舎建設基本計画」の策定に際しては、市民部会を設置して、これまでのように、単に行政が企画運営する会議に参加するのではなく、市民自らが会議の企画運営を行い、主体的に報告書をまとめあげるなど、他の自治体においてもあまり例を見ない、市民協働における先駆的取り組みも行われました。

となった庁舎問題検討委員会(委員長・高見澤邦郎 首都大学東京教授)による検討など、様々な形で多くの皆様に意見をいただきながら検討を進め、2004年6月には、「新庁舎建設基本構想」を策定しました。

また、続く「新庁舎建設基本計画」の策定に際しては、市民部会を設置して、これまでのように、単に行政が企画運営する会議に参加するのではなく、市民自らが会議の企画運営を行い、主体的に報告書をまとめあげるなど、他の自治体においてもあまり例を見ない、市民協働における先駆的取り組みも行われました。

**2 町田市にふさわしい設計者を**

このような経緯から、設計者の選定にあたっては、新庁舎建設の「基本構想」「基本計画」を十分理解し、その方向性に沿った設計を行うことのできる設計者、また、設計の過程において、町田市の特徴を生かし、市民や行政、議会と一体となって多面的に練り上げる能力のある設計者を選ぶことが重要と考え、単に価格のみを基準とする入札方式は採用せず、町田市新庁舎の設計を委ねるにふさわしい、適性を備えた設計者を選定するための方式を採用することにしました。

設計者の選定は、学識経験者等で構成する「町田市新庁舎建設設計者選定委員会」(委員長・三井所清典 芝浦工業大学教授)を設置して行われました。

選定方式は、前述の趣旨に鑑み、「資質(適性)評価型簡易提案方式」を採用しました。

この「資質(適性)評価」とは、応募者が新庁舎建設の「基本構想」「基本計画」をどう理解し、どう設計に反映しようとしているのか、また設計実績を町田市の新庁舎でどのように活かそうとしているのか等について、文章と概念図等あるいは作品現地審査などで評価するものです。

また、「簡易提案」とは、完成された設計案を求めるものではなく、設計に対する考え方を求めるもので、応募者の負担軽減を図るとともに、設計者(人)を選ぶという点を重視したものです。

選定は、次の順序で行われました。



**第1次審査**

資格や実績等、一定の要件に該当することを条件に、幅広く提案を求め、公募により行いました。

その結果、全国から優れた実績のある48の設計者にご応募いただきました。

**第2次審査**

応募者の新庁舎に対する考え方や取組体制、設計実績などを記載した資料をもとに行われました。公平性を確保するため、最初に応募書類のうち匿名性を条件に作成された資料をもとに評価し、最後に、過去の実績などについて記載された資料を加味する方法で審査が進められました。

この結果、12人が第2次審査に進むことになりました。

審査が進められました。

この結果、第3次審査対象者3人と入選者4人を決定しました。

**第3次(最終)審査**

応募者がこれまでに設計した作品を各1点、現地で視察するとともに、第2次審査で提出された簡易提案書について公開によるプレゼンテーションとヒアリングを行い、これらの内容を審査する方法で行われました。

このプレゼンテーションとヒアリングには、市民をはじめ各所から多くの傍聴者においでいただきました。

**第2次審査**

第1次審査における基本的考え方等の提案をふまえて、新たに応募者から提出された、設計方針などを表現した簡易提案書をもとに行われました。第1次審査の時と同じく、公平性を確保するため、最初に、匿名処理した簡易提案書をもとに評価し、最後に、第1次審査の提出図書を加味する方法で



**選定結果**

最終審査の結果、新庁舎の基本設計業務委託の第1位契約候補者となる最優秀者として、榎文彦氏(榎総合計画事務所)が選ばれました。

この結果は、審査当日、選定委員会から市長に報告されました。選定結果を受けて、市では、今後、最優秀者と新庁舎の基本設計業務委託についての協議に入ることとなります。

**3 これからも市民参加で**

新庁舎建設は、次の基本設計の段階においても、ワークショップなど、市民参加による方法を採用しながら進めていきます。参加の方法、時期など、詳細については、改めて本紙や町田市ホームページでお知らせします。

市では新庁舎建設に向けて、市民の皆さんからのアイデアや提案、ご意見を随時募集しています。手紙、ファックス、電子メールでお寄せください。

**送付先**

〒194-8520  
町田市中町1-20-23  
町田市役所企画部企画調整課  
新庁舎担当  
FAX 709-0613  
Eメール  
mcity090@city.machida.tokyo.jp  
data.tokyo.jp

**問い合わせ先**

709-0593